清水沢プロジェクト次の10年
炭鉱遺産・地域の記憶を糧にしたまちづくり
「清水沢エコミュージアム行動計画」

2019.10.6

一般社団法人清水沢プロジェクト

10年を振り返って

2008年7月、佐藤は修士論文調査のため清水沢地区での活動を開始し、2009年3月に修士論文において、炭鉱遺産を活用したエコミュージアムによるまちづくりが妥当であると結論し、「清水沢エコミュージアム構想」を提言しました。

> 夕張市清水沢地区において、地域に残る「炭鉱の記憶」を「再生」することを通じ、現在の住民の生活の質を漸次的に向上させ、未来にまちの誇りを伝えていき、最終的には「地域が元気になる＝地域再生」ことを目標とする。
>
> それは清水沢地区においては、地域住民が外部からの多くのファンと共に日常的に活動し、経済的・文化的に生活がうるおっている状態を指す。

これまで行われてきたマス・ツーリズムに依拠した観光を見直し、住民たちが主体となり、地域に埋もれているものを掘り起こす新しい観光を志向し、NPO炭鉱の記憶推進事業団の事業として、清水沢で数々のプロジェクトを実行してきました。転機となったのは、2011年の「夕張清水沢アートプロジェクト」です。これを契機に旧北炭清水沢火力発電所、清水沢ズリ山、JR清水沢駅待合室など、現在につながる炭鉱遺産の活用の道筋が立つこととなり、学生さん方が市営住宅の一角で滞在制作を行ったことで、「よそ者が隣人として寄り添うまち」が徐々に実現することになりました。その後も数々のアーティストがこの地を訪れ、場の力を畏れ、真剣に向き合い表現を行う姿を間近で見てきましたが、彼らの力で具象化された「地域に対する尊敬の気持ち」は多くの人々の心を揺さぶる力を持ち、「ゴミだ、負の遺産だ」と思われていた炭鉱の記憶に対し、新たな価値観を付与し、眠っていた記憶を掘り起こすことになりました。10年間の地域計画を立案し実行する中で、アートとの出会いは当初は企図しておらず思いもかけないものでしたが、アートの力で様々な人々とのつながりが生まれることになりました。

2016年、夕張市は市の地方版総合戦略の中に、「産業遺産ツーリズムの拠点としての清水沢プロジェクト」という施策を含めました。7月1日には「清水沢エコミュージアムプロジェクトに係る連携協定」を締結し、産業遺産や夕張のストーリーを伝え、夕張での暮らしやコミュニティーを実体験することにより、継続的かつ多様な交流人口を創出する夕張市の事業「清水沢エコミュージアムプロジェクト」を連携して進めることになりました。これに先立つ5月13日、事業を担うために「一般社団法人清水沢プロジェクト」を設立しました。活動拠点として清水沢宮前町の旧炭鉱住宅「宮コ23」棟の無償貸与を受け、「清水沢コミュニティゲート」と名付けて運営を始めました。前年、宮前集会所で町内会との共同事業として行った「清水沢コミュニティゲート」は、場所を変え、エコミュージアムの拠点として、地域にやってきた人々と地域の人々が出会う入口（ゲート）としての機能を強化したことになります。市と協定を結んだことで、構想から7年を経て石炭博物館と相互に補いあう野外博物館（エコミュージアム）が具体的に形を持ったものとなりました。

開設から3年、そのセンターとしての役割の清水沢コミュニティゲートを拠点に、市民が自発的に行動しはじめるなどの動きが生まれつつあります。当法人が求められる社会的な役割はますます重大になっています。活動を通じ市民が活躍し、多くの心を寄せる人々ともに夕張の宝である炭鉱の記憶が地域の誇りとなるよう、これからも活動を継続していきます。

参考・清水沢エコミュージアム構想（第1期）の10年計画（佐藤修士論文より）

表 6-3 清水沢エコミュージアム実現のプロセスと活動イメージ

筆者作成

	第1期（1～3年）	第2期（4～6年）	第3期（6年～）	10年後の目標
目標の達成度	可能な部分から着手 新たな現実の創出による住民の理解	それぞれの「再生」の意味を意識した活動に発展	各テーマにおいてそれぞれの「再生」活動が恒常的に取り組まれている	地域の再生 経済的・文化的にうるおいのある生活の達成
運営主体	広域NPOによる始動 追従的な住民の参画	広域NPO 地域に関わる内外の人々	住民・外部の人々からなる運営組織	住民・外部の人々からなる運営組織（最低限の収益性を追求するNPOや会社組織） 常勤・専任のスタッフを配置可能
活動主体	外部の人が主体 専門家 協力する少数の住民	住民の数人・ファン化した来訪者がコアメンバー化 それ以外の住民の協力が得られるようになる	多数の住民と増加した外部ファン	住民が日常的に活動に参加し、外部の多くのファンを獲得している
活動の活発度	イベントなどが単発的に行われている状態。	地域内からボトムアップされた活動が始まる 来訪者への単発的な対応が可能	地域活動が活発化、偶発的来訪者への案内も可能	恒常的な活動
施設整備の達成度	各資源の整備	テーマごとの整備 センターの整備（拠点の確保）	テーマ間の連結	他地域との連携
訪問者数	イベント以外の訪問者はほぼなし	断続的に少数の訪問者がある状態	恒常的に少数の来訪者がある状態	1日あたりの訪問者数の増加

※それぞれの再生とは、「記憶の再生(Research)」記憶の掘り起こし、「過去の姿の再生(Recall)」異なるメディアで具現化、「資源の再生(Reuse)」未活用資源の再活性化を指す。その結果「地域の再生(Revitalization)を生むとした。

10年経過後の達成度

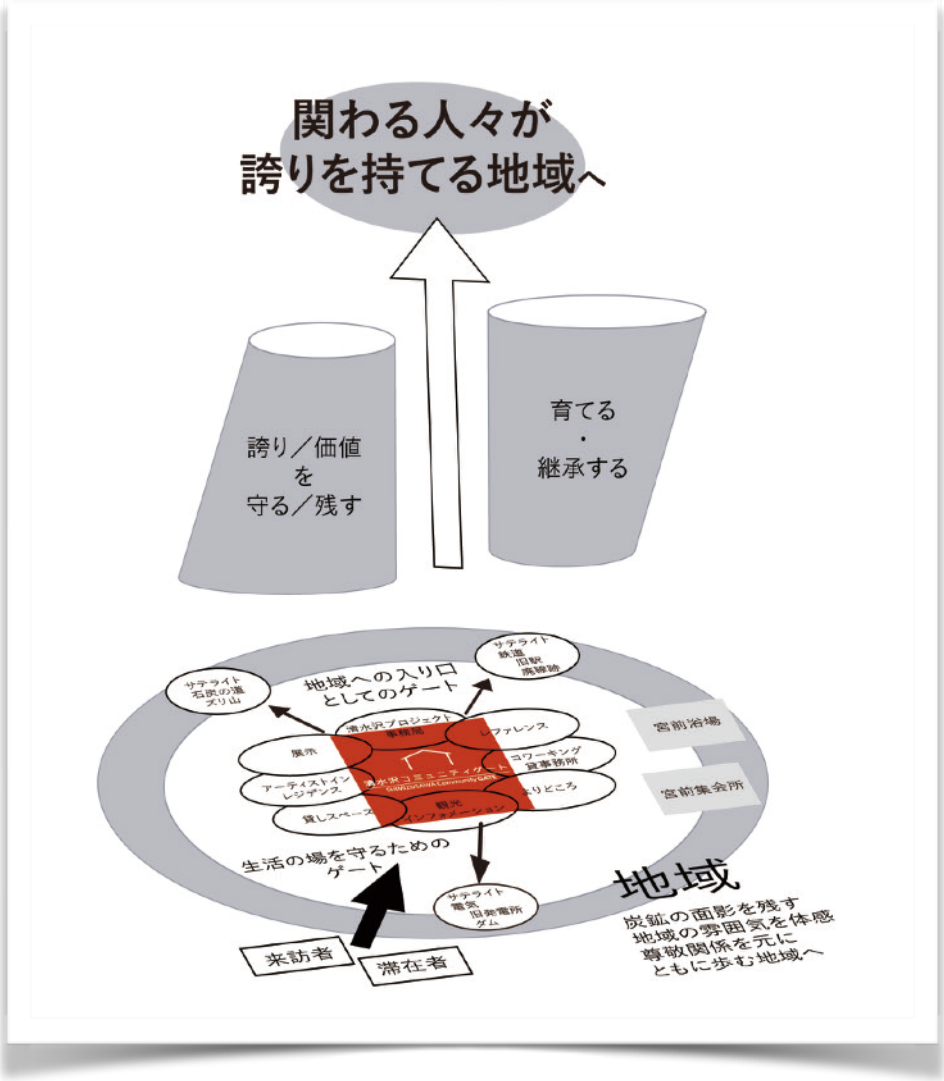
運営主体	非営利型一般社団法人を設立した。
活動主体	会員や地域の人々を中心に活動し、関わる人々を多く得ている。
活動の活発度	拠点を設け、恒常的に活動している。
施設整備の達成度	テーマの整備・センターの確保が行われている。 炭鉄港に準拠して連携している
訪問者数	恒常的に来訪者がありながらも、ゾーニングで静かな生活とのバランスが保たれている
目標の達成度	「地域の再生」の達成を測ることは困難だが、清水沢地区の炭鉱遺産は社会的に認知され、価値を評価され、それを糧とする活動への理解も広がっている。

「次の10年」清水沢エコミュージアム行動計画　基本構想

法人定款　第３条（目的）
「当法人は、夕張市清水沢地区を中心とする空知旧産炭地域や関連地域において、地域の象徴である有形無形の炭鉱遺産を保存・活用することを通じ、地域内外の人々が相互に尊敬しあう関係を構築し、両者がともに歩む、楽しく健やかな地域づくりの推進に寄与することを目的とする。」

目的

法人の目的を土台に、清水沢エコミュージアムは、徐々に収束する地域において地域に残る炭鉱遺産・地域の記憶を糧とし、地域内外の人々が相互に尊敬しあう関係を構築することで、現在と未来の住民、それに関わる人々が誇りを持てる地域をつくることを目標にします。



清水沢エコミュージアム「次の10年」概念図

コンセプト

・「清水沢エコミュージアム」は、博物館を定義する「収集」「保存」「展示」「教育・研究」の機能を持つ現地で体感できる野外博物館であるとともに、まちづくりの明確な概念でもあります。

・清水沢エコミュージアムは、単なる遺産の保護活動・観光客の誘致ではありません。地域住民の静かな生活を守りつつ、地域内外の人々が出会うきっかけを生み、幅広い交流からまちづくりにつなげていきます。

・静かな生活を守るためには門を閉ざす、「門番」としての強い意志を持ちます。

・失われるものはあるにせよ、新たな人々により、誇りを糧に新たな夕張の歴史を育てていくという、時間軸を意識した活動を展開していきます。

○誇り／価値　を　守る／残す

→炭鉱を由来とする地域独自の景観や文化の価値を内外に対して示し、将来の糧とします。

（例）

・炭鉱遺産の文化財指定・街並みの伝統的建造物群保存地区指定

・景観の維持、文化の継承に積極的に関与

・記憶の収集　しかるべき組織の活動と接続

・記録　デジタル技術の活用／書籍・冊子の発行

○育てる・継承する

→一人ひとりの市民が地域風土の中で育んできた自らの知識・技術・経験を認識し、地域の未来を考える契機となる場づくりや人づくりを行い、社会的な評価・尊敬関係の構築につなげます。

（例）

・小中高と連携・挑戦したい大学生を応援

・コミュニティゲート滞在作家の支援とアーカイブ、札幌国際芸術祭などとの連携

・研究機関（遺産の保護・保存、地域経営等）

・すべての市民に学び、光を当てること

・まちづくりへの思いを具現化する行動力

・広域ガイドと思いを語れる語り部の養成・組織化の提言

・大学で学んできた夕張出身の若者の雇用

清水沢エコミュージアム「次の10年」展開図

清水沢エコミュージアム「次の10年」行動計画　実現のプロセス

	第1期 （2019～2021）	第2期 （2022～2024）	第3期 （2025～2028）	10年後（2029）の姿
周囲の状況	2020　拠点複合施設／SIAF 2021　認定こども園	2022　清水沢水力発電所／旧火力公開10年 2023　SIAF	2026　再生振替特例債償還終了／SIAF	2029末　財政再生団体脱却 2030　人口4,603人（社人研推計）
運営主体	価値観の共有による共感者の増加、法人の収入の確保 （会員・スポンサー）	収益の安定 常勤スタッフの配置	持続可能な運営体制 意思決定機関たる理事会の設置	公益法人化 まちづくりのあり方を提言・具現化していく政策提言集団としての地位を築いている
活動主体・活発度	やりたいことを実現するために参画する人々 関心を持つ人達の主体的か関わり 70歳以上の参画 公共・教育セクターとの協働	外部の多様な主体との連携	意思決定機関による強固な活動	地域のなかで様々な主体の活動を支援する組織である 夕張出身の若者をはじめとする担い手の育成機関である
地域資源・施設整備の達成度	記憶・記録の保存 緊急性の高い遺産の保護 調査・研究・教育	デジタル・アーカイブ 然るべき機関との協働、共有財産化 景観の保存についての議論	ファンディング	重要度の高い遺産、景観の保護・保存が行われている
来訪者	コントロールとマネジメントという思想の普及 コミュニティゲートを出発点とした周遊の定着 炭鉱遺産の正しい理解と普及			節度を持った来訪者と尊敬関係を築いている
目標の達成度	会員数50名	会員数80名	会員数120名	現在と未来の住民、それに関わり人々が誇りを持てる地域をつくる